

民間としてやるべきことは？

現状を見て、これからを考え行動する

自己紹介

岡崎哲三

- ・札幌生まれ、三角山と積丹の海育ち（勉強はせず）
- ・25年前に大雪山で働き始める（登山道整備に興味を持つ）
- ・約20年前に福留脩文さんと「近自然工法」に出会う
- ・数年後、視点が切り替わる
- ・2011年 合同会社 北海道山岳整備 を起ち上げる
- ・2018年 一般社団法人 大雪山・山守隊 を起ち上げる



三角山



積丹

近自然工法という発想

「生態系の復元」

登山道を歩きやすく直す・・・のではなく
「自然を蘇らせる」ことが目標となる。

そのためには・・・

「自然はどうなっているのか」

「自然はどうなっていくのか」を知ること。

自分はこう思う・・・から、自然はどうなんだろう
という視点の切り替え



どんな場所でも復元の可能性がある



発想と技術があれば解決策はある！

登山道を直したかった・・・だけど・・・

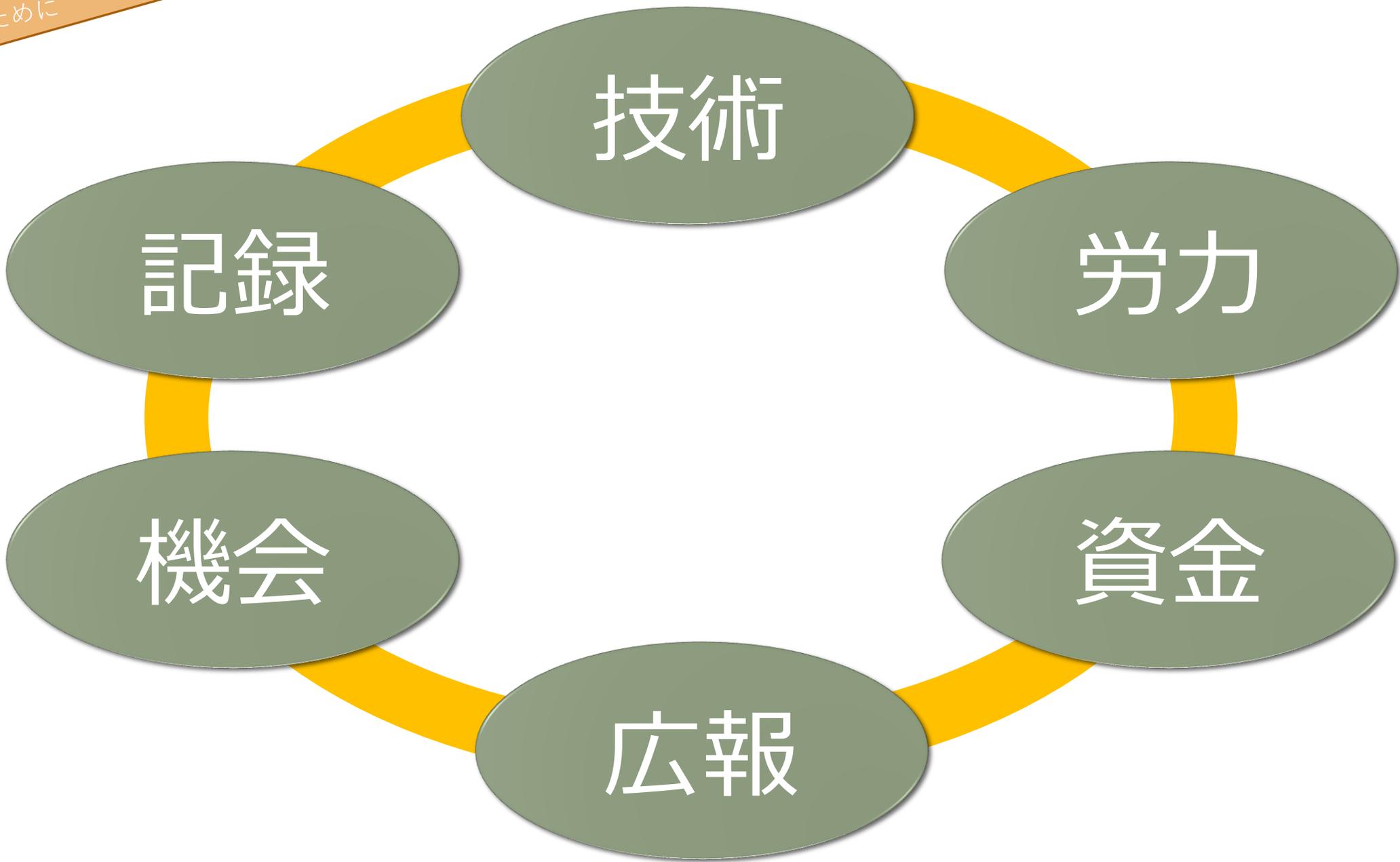
- ・勝手に直すことはできない
- ・行政はなかなか直さない
- ・直しても、ほかの場所で崩れる量のほうが圧倒的に多い
- ・崩れていることも知らない管理者
- ・放置される登山道
- ・利用はするが保全はしないのが管理？
- ・保全にかかわる山岳団体は、仕事をくれる行政に物を言わない
- ・荒廃が進んでいることも知らない一般の方々

このままでは何をやっても無理だ！！

**登山道を守ろうとすると、
技術だけでは守ることができない。**

**人を繋げ、様々な環境を作り、
それを継続させることが重要。**

**技術よりも大切なことが
たくさんあります。**



誰か一人でも良い、これらを繋げる努力をする人が必要

技術

近自然工法だけでなく、幅広い分野の技術や知識を活用できるように、常日頃からアンテナを張っておくことが重要。

生態系の知識や土壌・地質の知識、作業道具の管理方法なども必要な事柄である。

センサーやジオウェブ、グレーチングなどは他分野の工法からの応用であるが、今後の山岳地域での発展が期待できる。

また、温暖化による生態系の変化も常に意識し今までとこれからを考えつつ、将来を見据えた技術になるよう行動するべきである。

生態系復元のために

記録

**アクションカムやドローンを使って動画
ベースの登山道全区間記録の取得**



**正確な記録がなければ
継続した施工計画は立てられない**

資金

どうやって集めるか

- 行政頼みの時代ではなくなった
- 登山者自身が負担する雰囲気になっている
- 行政と連携し、集める努力が必要

将来的な受益者負担のシステムを見据え
今から行動を起こす

大雪山高原温泉の事例・ 2019年 約2週間で30万円 2020年 64万円が集まる。



携帯トイレブースの設計から設置・管理まで

現在大雪山にある携帯トイレブースはテント型か、小屋型であり、テント型の設置で25万円程度、小屋型の設置で150万から750万円(へり運搬)必要。今回、山守隊が設計から行なうことで、資材費10万円程度でトイレを作成し、ボランティアと共に荷上げ、設置した。



生態系復元のために



登山道整備もそうだが・・・

資金を集めることと同時に、
かかる費用を抑えることも重要

広報

実は一番重要だったりする

現代は情報社会であり、登山者や一般人が多くの情報を得て自己判断する時代。

正しい状況をしっかりと伝えられればそれだけで多くの賛同者が得られる。

良いところだけでなく、問題も発信し、共有することで「守る雰囲気」を醸成することが重要。

生態系復元のために

広報

実は一番重要だったりする

① 地銀余命ランキング105 ② 日本の山が危ない
付き合いたくない銀行・証券 登山の経済学

週刊 **ダイヤモンド** ダイヤモンドレポート
日経「ザハ案」雪害
バルサでの大金
9/30迄 710円 2019
10/1以降 723円 10/5

銀行・証券 断末魔

全国地銀 **105行**
余命ランキング

付き合いたくない
銀行・証券ランキング



日本の山が危ない 特集2 Special Feature 2

登山の経済学

山地が国土面積の6割以上を占める日本で、日本人は古くから山に親しんできた。近年のブームもあり登山というレジャーは国民に広まり、シーズンには有名山岳は老若男女の登山愛好家でごった返す。ところが、その登山を支える構造に今、異変が起きている。

ダイヤモンド編集部・鈴木洋子

Prologue

◆ 過剰する登山市場に迫る危機

◆ 民間国立公園に黄信号

多くの登山者の憧れの地、北アルプス。新潟県、岐阜県にかけて標高3,000メートル級の山々が連なり、標高差や峻険さの名刺が光り輝く。登山口から徒歩15分間かかると、山奥に、シーズンになるとは別荘や別荘で、客でにぎわう。そんな山岳地帯で営業する約4軒の山小屋が、この夏、孤立。する事件が起った。

「食料が尽きた、スタッフもなくて山小屋の周りの山を歩いたら、夕方は毎日お片手と山奥の天ぷらばかりでした」と三保山荘を経営する伊藤敦子さんは言う。他の山小屋では夏山シーズンを目前にして、営業開始の準備は、ヘリコプターだ。

北アルプスという、日本で最も人気の高い山域への食料や燃料などの必要物資の輸送は、山小屋へは登山用車でトクシヤの車輦が運ぶが、最近では1社で支えていた。その輸送の網の網の網の網の網が、悪天候と機体故障の影響で7月の約1カ月間飛ぶことができなくな

朝とか早朝に完了し、8月までに山小屋の孤立状態はほぼ解消された。一応、山小屋が孤立した状態は、孤立と断末魔、という悪条件が重なること。こうした事態が起きた。今後、将来的なヘリの新規購入も、また再防凍策を多々一歩先んずは考える。

登山者が安全に登山を楽しむための環境は、誰が守るのか。北アルプスをはじめとする日本の一旗の山岳は、その多くが国立公園内にある。国立公園とは「環境大臣が指定し国が直接管理する公園」で、国が優れた自然の風景地を保護するために開発を制限し、自然を保全し、利用がしやすいように必要な措置を講ずる目的で指定されている。多くの国立公園で、登山者の宿泊施設や登山道の維持管理、そして自然環境の保全などを担って来ている。民間の山小屋である。近年の山小屋ブームは登山者に對して登山と宿泊場所を後押し、かつ登山者の安全をサポートする公共的役割を担ってきた。ほとんどの山小屋が、ある程度、お泊り受けの機能はあった。また、山小屋周辺の登山道整備や、遭難発生時の一時救助を山小屋が行うのも日常業務。登山者の不意の病状やけがに対応する山岳診療所を併設した山小屋も多い。

山小屋への物資の寸断は、登山者の安全のために山小屋が持つべき公共的役割の寸断を意味する。しかし、山小屋が国が直接管理すべき公園での公共機能を事実上代行していることに対して、行政の支援は行っていない。今回、このヘリ問題についても、地元では「山小屋が公共的に必要な存在だ」と国民全体の認識がなければ、行政の支援には理解が得られない。経営者も国立公園長としてのスタンスを崩さない。

「民間国立公園」。多くの登山愛好者がこうやゆする。日本の山岳維持管理の構造問題。これが何ら解決されないまま、国立公園をインフラダウンの危機に瀕して、活用、する方向性を出している。数度の登山ブームで大きく膨らんだ登山市場。それを支え続けた山小屋が、断末魔に陥る。今、日本の山に何が起っているのだろうか。

105 週刊ダイヤモンド 2019/10/05

104 読者サービス部 2019/10/05

生態系復元のために

機会

・ 整備イベント「たまには山へ恩返し」



整備イベント

・たまには山へ恩返し
平成29年 黒岳（雲の平）

参加者58名



生態系復元のために

労力

・たまには山へ 因返！
平成29年



「日曜日の登山道整備」を開催



日曜日ごとに場所を変えて登山道整備を実施。

5回程度行なった。

現地集合・現地解散・好きな時間だけ参加。

3～4日前に告知し、大人数が集まらないようにする。

現場指導者を1～2名配置し、正確な作業になるよう心がける。

それでも一日最大30名が集まる。延べ70名以上が参加。

生態系復元のために

苦しい作業でも、人は集まる。
作業の意義をどれだけ伝えられるか。
うまく伝わると人が人を呼んでくれる時代です。



7~9月で延べ100名以上が参加。4トン以上の木材が荷上げされる。



整備イベントによる変化

正しく施工できると植物の復元が期待できる

土が溜まり、地盤が安定してくると植物が復元

自分が手をかけたことで山が生き返ってくる感覚

施工することが楽しくなってくる

登山道整備は苦しいことではなく、楽しいこと

山の変化とともに人の心情も変化する

大雪山とは

故郷の山

大雪山があるから雪があり、川があり、
肥沃な土壌があり、農業があり、町がある

保護されているのは私たち

「山へ恩返し」 の気持ちをつなげる

行政や管理者だけでなく、
登山者が、地元の人が、その山のファンが、
それぞれの立場で協力していけるような
システムを作ることが大切です。



どんな立場ですか？

あなたのかかわり方は？



立場によって考え方や行動が違う



行政
土地所有者

登山者

コンサル

行政
事業執行者

山岳会

土木業者

登山しない人

研究者

ガイド

山岳保全団体

誰に責任がありますか？

自然公園法

第一章(国等の責務)

第三条

国、地方公共団体、事業者及び自然公園の利用者は、環境基本法（平成五年法律第九十一号）第三条 から第五条 までに定める環境の保全についての基本理念にのっとり、優れた自然の風景地の保護とその適正な利用が図られるように、それぞれの立場において努めなければならない。

いろいろな立場や考え方がありますが・・・

登山道を直接崩しているのは我々登山者です

私たち民間ができることは？

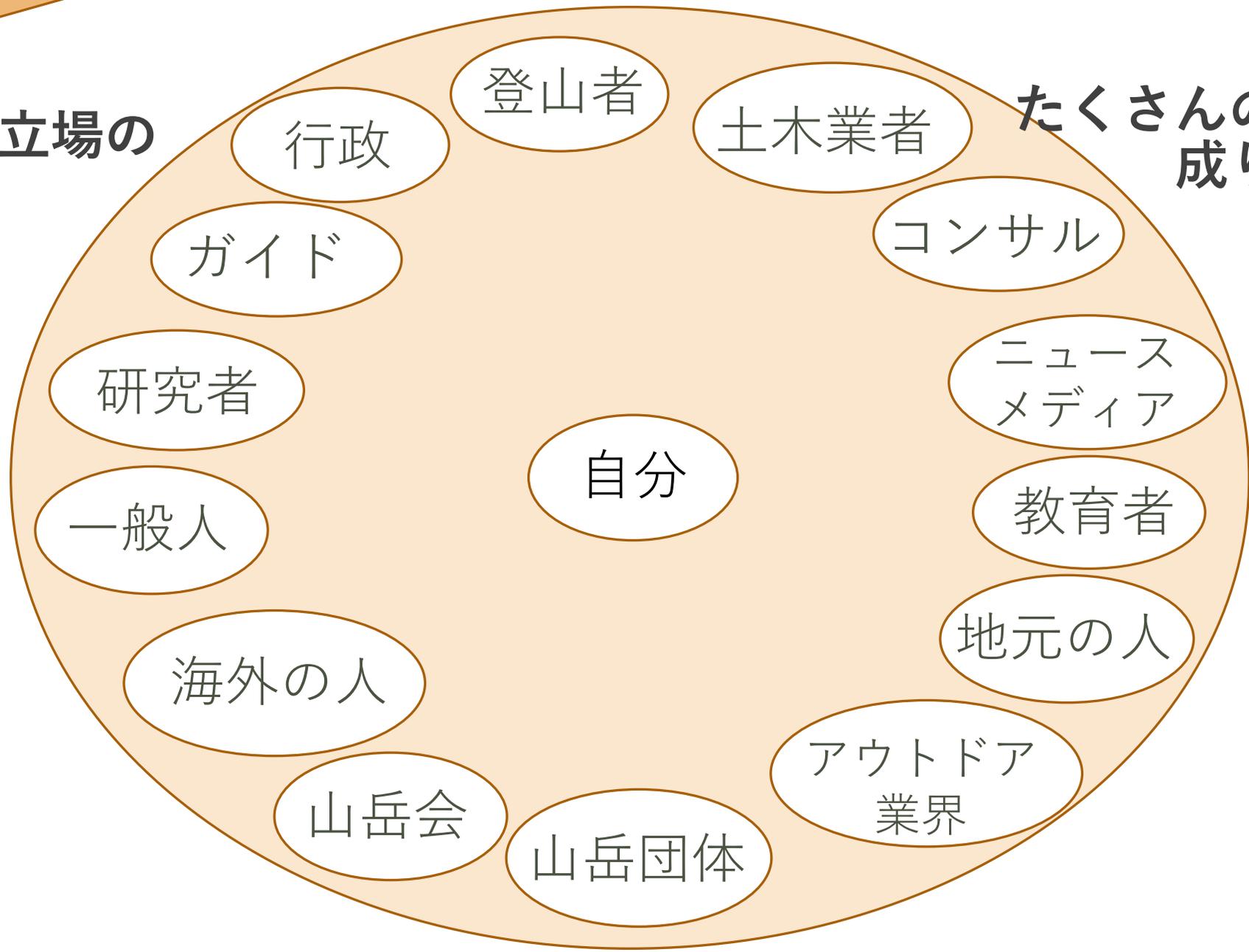
山の現状を良くしたいと思っている人

多角的に見ること。

行動の幅を広げること。

生態系復元のために

いろいろな立場の
人がいます

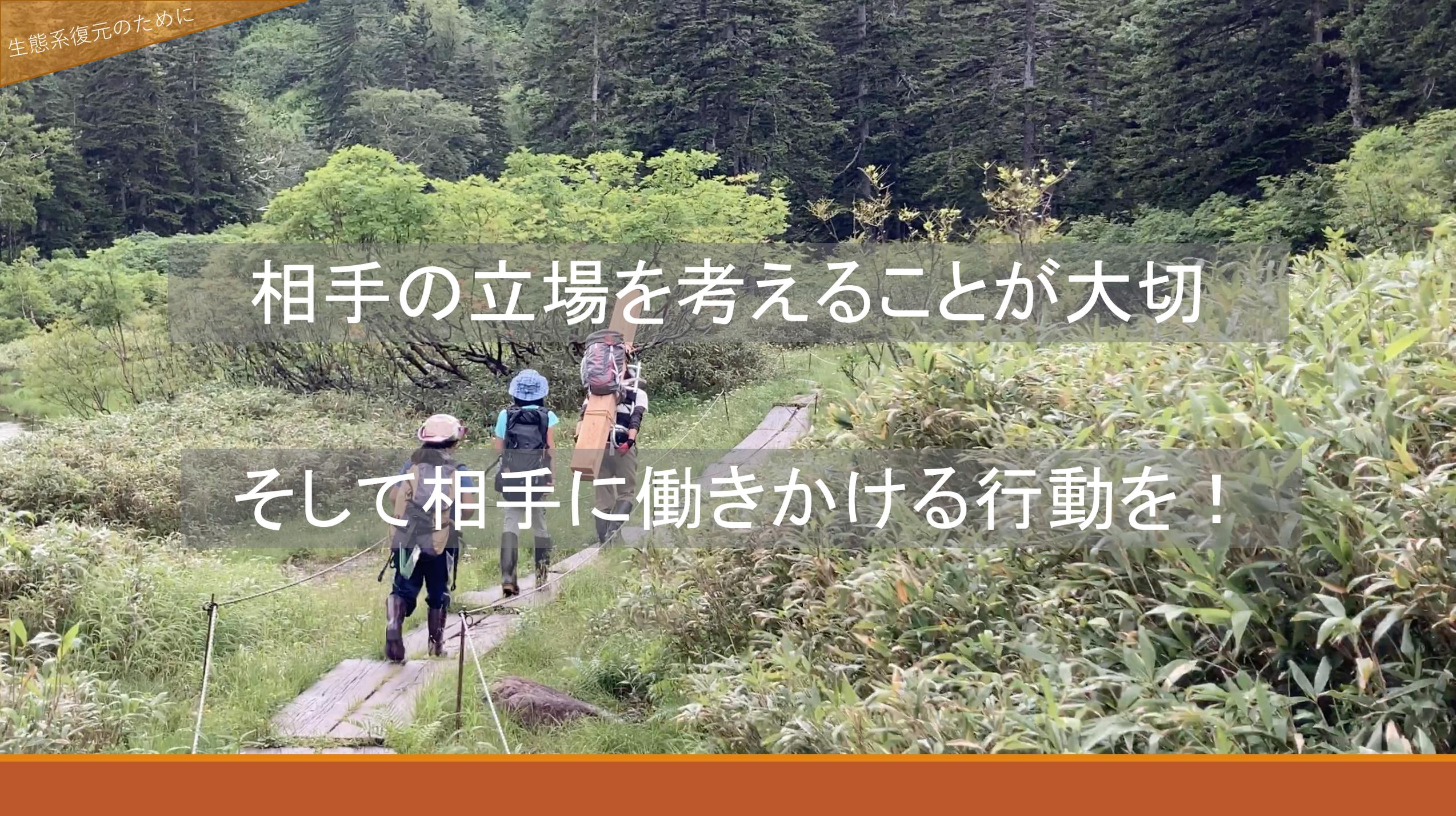


たくさんの人の行動で
成り立っている

自分以外の人は何を考えているのだろう？

相手の立場を考えることが大切

そして相手に働きかける行動を！



生態系復元のために

頑張りましたよ！

